扶助者聖母の祝日　九日間の徳の花（６日目）

皆さんにも少なからず影響を受けた人物がいると思いますが、私は母親からおおいに影響を受けています。今朝は、その母親の話を、少しだけしたいと思います。

わたくしの母は、わたくしが学生時代に朝、本当に体調が悪く、お腹が痛い時でも「学校に行けば治る！」と言い張り、学校へ行かせるという豪快な育て方をする人で、とても面白い人です。そして私は、言われるままに実際に学校へ行ってみるといつの間にか治ってしまい、楽しく学校生活を送る、という育ち方をしました。

こんな剛胆な育て方の母ですが、大変見習うべき所があります。それが「自分の思うことは、相手に伝わっている」という考え方です。自分が誰かを嫌い、と思えば自然とその思いは相手に伝わって、相手にも良く思われないのだ、という考え方です。

あの子はいつも私が話しかけても仏頂面で感じが悪い。

あの子は授業中に話しかけても無視してくる。

だから私はあの子が好きではない、腹が立つ、と思えば、実は自分もそう思われているよ、と母は言うのです。

学生の頃に、母にそう教えられた時、わたくしはそれは悲しいことだ、と思ったのです。ではどうするか。

そこでわたくしは、「相手への見方を変えてみよう」と思いました。仏頂面で話さない子は、もしかしたら照れていただけなのかもしれません。授業中に無視する子は、もしかしたら授業に集中しなさいよ、という無言の注意をしてくれたのかもしれません。それでも納得いかなければ、納得のいくまで喧嘩をして、相手が何を考えているか理解してみよう、と考えたのです。そうすれば、相手が何を考えて行動したのかが判ります。相手を理解すれば、相手を嫌うこともなくなりました。母が本当に教えたかったことは、この部分だったのだと思うのです。

見方を変えてみれば、欠点も全て美点の一つへと変化します。「自分の思うことは、相手に伝わっている」ということは、つまり自分が相手を好きなら、相手も自分を好いてくれているだろうということなのです。

今日の徳の花　　受け入れたい

周囲の人たちの欠点を受け入れたい。誰にでも弱さはあるのだから。マリア様、広い心をわたくしに下さい。

さぁ、今日はおおいに喧嘩し、おおいに友人の欠点を見つけ、そこを素敵なものと愛してあげましょう。